

## 日本語中級クラス（J 6）におけるプロジェクトの試み

辻村 まち子 ・ 河元 由美子

はじめに

日本留学の利点とは何であろうか。教材も豊富になり、教師もnative, non-nativeに拘わらずある程度揃い、教師の取り組み方如何によって、新しい教授法で外国語を学ぶことが可能である今日、学習者が全く自国を出ずして外国語をマスターすることはそれほど困難なことではない。

マスメディアの発達と共に、目的言語国と同じ最新のニュースを教材に使い、更にコンピューター等の道具の助けによって、より能率的且つ効果的に学習目的を達することもできる。それならば、目的言語習得のための海外留学と、自国における学習との差はどこに出てくるのか。

先ず、1つには、実生活を通して入ってくる情報量の多さである。聞くと同時に必要上話す「量」が、前者において断然多いことは言うまでもない。2つめは、日々流動し変化する生活情報を「時差なく」浴びる事ができるということである。即ち、「今」、自分のまわりに起こっている現象、事物が全て学習の対象になる上、自国よりも、はるかに多くの目的言語を話す「人」と接触することになる。

理論的には上記のようであるが、では実際に日本の実生活にどこまで入り込んで情報の多さを享受し自らを生活情報に露呈しているか、現実を見ると、留学生の目的言語習得実体験は必ずしも十分とは言えないのではないだろうか。

日本に留学している外国人学生が、教室外で接する日本人はかなり限られているようだし、話す日本語は必要最小限な場においてのみ用いられるということも言えるだろう。せっかく日本に留学しているからには、日本語及び日本文化の摂取量を最大の物にして帰国後の将来に役立ててほしいと願うのは、教師の共通した望みである。コミュニケーション重視や、日本文化に直接触れる学習方法や理論は、後述の参考文献に見られる通り、これまでいくつか取り上げられているが、その実践例はまだ少ない。本プロジェクトは、方向づけ、指導、活用内容に対する相談等に、教師が協力したものの、その主軸は、何と言っても学生の積極的、且つ果敢な取材活動と発表にかける意欲であった。実社会の中で自己のコミュニケーション運営能力を試す場をふんだんに与えた事、情報処理能力を向上させることを目標にしたものが本プロジェクトの特徴と言えよう。

以下、プロジェクトの概要及びその評価について述べる。

## I. カリキュラムにおけるプロジェクトの位置づけ

今回のプロジェクトは、J5の延長線上に成り立つ。幸い、学生も教師もほとんどそっくりJ6に持ち上がったため、お互いの信頼関係はできあがっていた。ただ、J5に於ては、新聞に多くの材料をとった教材を、しっかり読み取る事を主眼とし、あまり教科書はずれないようにカリキュラムが組まれていた。そして、J6への導入として、学期末に近い2日半（5コマ）を環境問題の学習に使った。【資料1】新聞のようなナマ教材を読む事は、J6においても続けられ、これがプロジェクトのための多量の資料を抵抗なく読むことへの助けになった。J5のラボの時間は、単発のニュースやまとまったテーマをもつ番組が多く取り上げられ、聞いたり見たりして情報をつかむ練習をした。J6に入ってから、週10コマ（1コマ70分授業）の内、木曜日の2コマを始めからプロジェクトの日として独立させた。10週20コマのうち、発表の4コマを除いた16コマを、事前学習、活動、中間発表、活動の続きと最終発表の時間とした。【資料2】（成績の最終評価の総点数750点中、プロジェクトは100点である）

## II. 事前学習

共通テーマとして、21世紀に向かって生きる者として関心を持つべき「環境問題」を取り上げた。大気汚染、自然破壊、公害病、動物保護、ゴミ処理、リサイクル等のビデオを教室やラボで見、且つ読解用新聞記事を読む事によって各問題に対しての一般的な知識を得ると共に、問題意識を持たせた。ビデオによる学習はしばしばタスクを伴い、内容の確認をしながら知識を増やすようにした。【資料3, 4 & 5】

折しも、その研究成果をICU高校の政経演習クラスで、生徒の自主活動として身近な環境問題に取り組み、学校祭で発表したという情報を得た。これは当時の新聞にも取り上げられ、高校生の積極的自主活動として高く評価されていた。【資料6】 さっそく高校の渡部教諭に連絡をとり、研究発表のビデオや生徒作成のリーフレットをお借りすることができた。ビデオはラボの時間に参考として流した。（野川のゴミ処理場移転に関する住民側、行政側の対処の仕方や、住民意識についての発表であった。）

「公害病」について学んだ時は、図書館で資料を探す実施訓練をした。図書館側への連絡と大体どこに資料があるかの情報を教える事は教師が行った。（これは、あくまで時間節約ということで、もちろん時間が許せば学生自身が行なうことである）手分けして調べえた情報（例、『イミダス 1991 集英社』『現代用語の基礎知識 1991 自由国民社』などで大まかな概念を得る、『水俣 写真集 ユージン・ミズ 1982 三一書房』からの視覚情報、『環境白書 平成元年 環境庁』『環境科学辞典 1985 東京化学同人』等

からの公害病の原因、病状、訴訟、治療、外国の例等)を、教室に持ち帰って発表した。次に関連ビデオを視聴することにより、次第にプロジェクトとしての問題意識を盛り上げていき、加えて関連記事も読んでいった。

実際にプロジェクトのために費やされた時間は木曜日の2コマ以外にも多くあった。例えば、作文の時間に「レポートや論文の書き方」の指導をしたり、会話の時間に「インタビューの仕方」を練習した。

学生も活動のための実態調査や見学、訪問、アンケート実施等、放課後や週末の時間を含めると、延べ時間数は、単純に2コマX10週に留まらない。教師も、その他に関連ビデオのチェックと録画【資料7】見学や訪問の下準備から付き添い、新聞等からの資料収集やコピー取り【資料8】、アンケートの語彙・表現チェックや印刷等さらに多くの時間を必要とした。

その他、環境問題とは別に、現在社会的にも政治的にも注目をあびている「米」に関する最新の新聞記事、投書欄（一般の日本人が米に対して持っている意見を学習するための例として読む）更に新聞社自身が行なった6項目から成る一般面接聞き取り調査分析結果を読み学習を深めた。

### III. 具体的な活動状況

#### 1. グループ分け

3週目、クリスマス休暇が終わり新しい年の授業が始まった日にグループ分けを行った。学生の希望により個人研究も認める事にし、各自研究したいことのテーマを決めドラフトを書いて提出させた。

この時点において、まだはっきりとテーマを絞れないグループもあったが、結局、8つのテーマがでそろった。構成人員は1人から6人である。個人研究は2つで、「ハワイ出身の外人力士」と「パチンコ研究」であった。その他のグループ研究は、「カラオケ大研究」「ゴミ問題とリサイクル」「お米を考える」「高齢化社会」「お相撲」「ホームレス」であった。

#### 2. 個別相談日

4週目は、各グループの相談日とした。二人の教師が手分けして、学生からの相談や質問を受けたり、研究の焦点をしぼるように助言を与えたり、真の興味や関心について話し合ったり、必要な情報を提供したり、また録音可能な小型テープレコーダーの貸し出し等も行った。学生達の報告を聞きながら彼らの前向きな意欲を感じると共に、必要な日本語とそれに伴うマナーを教えなければならない事に気がついた。例えば、「外人力士」を調べる学生が相撲部屋に電話をかける時、そばについていて用件の切りだし方や、話し終わりの挨拶等に助言を与えた。また、「高齢化社会」を研究するグループが、「老人病院」とか「年寄り」という言葉を使おうとしているのを知り、もっと一般に使われている、響きの柔らかい言葉や表現

を教えたり、インタビューの対象者の幅を広げるように助言した。街頭インタビューを試みる「お相撲」グループには、人をよびとめる際の挨拶の仕方を口頭で練習させたりした。「ホームレス」のグループは、山谷に行ってホームレスの実態を見るという。「山谷」という言葉を聞いただけで教師がたじろぐのは、かえって日本人の偏見の現われであろうか。夜のナイトパトロールには十分気を付け、また厚着をしていくことを薦めた。自分達の持っているハンディな8ミリカメラで街へ出て飛び込み取材をするという「カラオケ」グループにも場所や時間帯に注意をし、「ホームレス」グループ同様、夜間の場合は、女子だけではなく男子のボディガード付きを示唆した。「パチンコ」を調べたいという学生とは、色々話し合った結果、一番不思議だと思っている事---女性が何時間もギャンブルに興じている---を聞きだし、焦点を女性にしばらくインタビューをする事、今回は景品引換所等の方へは興味を広げないことを約束させた。環境問題、「ゴミ問題とリサイクル」にとりくむ学生達には、清掃工場見学と言う手段を提案した。これは、昨年インテンシブクラスで授業の一日を利用して杉並区の工場見学を行った事を耳にしていたため、教師側が連絡をとることとした。この学生達には既に録画してあったニュースや特集番組のビデオを貸し出し、よく視聴することを薦めた。その後も様々な新聞記事、雑誌からの切り抜き、ビデオ等を与えていった。与えてもこなすだけの力を持っている学生達なので、少し上のレベルを目指すという意味もこめた。

「お米」をとりあげるグループからは、アメリカ米輸入に関しての日米相方の政府見解の相違を調査する事から日本の米問屋へのインタビュー、さらに主婦への意識調査までも試みたいという意向をうけ、図書館での新聞のバックナンバー調べ、大使館やインフォメーションセンターへの連絡を助言した。

これらの時点で、学生達が、自分達の‘冒険’にワクワクし始めていることに気付いた。各グループに見学/訪問先での「証拠写真」をおさめてくるとも提言して、それぞれの活動に送り出し、教師は学生の活動中、連絡のとれる状態にしておいた。

### 3. 中間発表まで

5週目は自由活動日とした。各グループ内での話し合い、図書館や諸機関での予備調査、街頭での実験的インタビュー等の個々の活動が、日中に自由に行なえるようにした。次週の中間発表までに総体的なアウトラインを組立て、クラスメートに自分の研究を報告しなければならないので、短期間で準備に没頭したようだ。例えば、予備調査として少人数にインタビューする、図書館にこもって3か月分の新聞を調べる、索引をひく、書き抜きやコピー、関係のありそうな機関への電話、英語ではあるが関連図書の読破、山谷訪問等であった。これらの活動の中から、テーマとして選ん

だ事柄の何について特に調べるべきか、何を中心に発表するのか、これからの方針や方向をしぼっていき発表の分担もきめた。

#### 4. 中間発表

発表当日は、1グループ10分以内、テーマ選択理由、目的、今までの活動報告とこれからの活動方針や希望等を述べた。教師側は、コメント用紙を学生に配布し、A.準備 B.発表方法 C.内容理解度を1から5の点数で、その他のコメントも記入するように指示した。各グループの発表後、聴いていた学生達から質問や助言を受けた。発表者、聞き手相方が情報交換することによってお互いが興味や関心を示し、刺激しあい、各自の次の活動への意欲を喚起したようだ。この発表で、既にアンケート調査を実施したり、ボランティア活動を行なったり、白書からの統計結果をOHPシートにかいて全員の注目を集めたグループもあり、まだ手をつけ始めたばかりのグループには驚きを与えたと同時に、がんばろうという気持ちをおこさせた。

教師側の評価としては、(1)10分以内でよくまとめた (2)多人数でもよく分担を割り振ってある (3)全グループがアンケート調査を希望---特に一般の日本人へ調査 (4)友人達からの強い情報網の活用等があげられる。しかしながら、発音に問題があるグループもあり、個人指導が必要と判断した。

22名から8つものテーマがとりあげられたことに、学生達自身が興味、関心、話題の豊富さや多様性を楽しみながらも、真剣に各発表をうけとめていた。発表後のコメント用紙には、「面白そう」「よく調べた」「がんばって」等、お互いに励まし合うものが多かった。【資料9】

#### 5. 中間発表後の活動

最終発表までに3週間の猶予しかいないため、次の2週も個々の自由活動日とし、教師との話し合いや相談を希望する学生には前もって時間を設定し、教師は教室あるいは研究室で待機した。

学生側は、(1)アンケート内容を練り、質問事項を清書（教師はそのチェック、語彙や表現の訂正、印刷、実施場所・日時・相手を確認）【資料10】 (2)アンケート調査実施、用紙回収、インタビュー時の録音録画 (3)資料請求とそれらを読みまとめ、書く作業 (4)電話インタビュー (5)施設見学のための連絡どりと実際の見学（リサイクルセンター、クリーンセンター、三鷹と武蔵野市役所、福社会館、米問屋等）、その中で説明を聴いたり質問をしたりしてノートをとる (6)ホームレスグループは六本木の教会の牧師に話を聞く、山谷でホームレスの人と話す、ナイトパトロール（おにぎりや毛布を配る）参加等、活発に各自の責務をこなしていった。

日本人は沢山資料をくれるので、それらを読むだけでも大変だ、公的機関でも非常に懇切丁寧に説明してくれるのでうれしかった、あるいは、忙

しいからとアンケート回答を断られて数が集まらない、店の回転が悪くなるから客へのインタビューはお断りと言われた等、その都度報告が届いた。

アンケート実施後、結果の分析、表の作成やデータのグラフ化、発表用原稿作成、発表の役割分担や順番を確認する。そして効果的発表は、様々な視聴覚機材を活用する事があると学んだ事と、今回の発表はビデオに収める事から、以下の作業も行なった。(1)各グループのタイトルと発表者名を明記したカードの用意 (2)グラフ化やチャート化した調査結果をカードにかく、あるいは手書きや文献からコピーをOHPシートにうつす(中間発表時のOHPシート使用がいかにより視覚に訴え、理解が早く、効果的であることを体験したことにより利用者が増えた) (3)雑誌、広告、資料からの切り抜きをカードにはる、手書きの絵を直接かく (4)自分で撮影した8ミリビデオをデッキ用にコピー、あるいはテレビから録画したビデオも発表時に見せる部分のみに編集等発表のビデオ撮りにもふさわしい変化のある作品を目指した。さらに発表練習も行なった。

教師側は (1)各テーマの関連記事を新聞、一般雑誌、市報等から収集、(2)テレビからのビデオ録画 (3)各機関への電話連絡で見学可能日時を調整し、付き添い、(4)パチンコ店でのアンケートとり、(5)アンケート数の足りないグループのために学内の教師あるいは家族・知り合いへ協力を要請、(6)ILCオフィスでのビデオ編集付き添い、(7)ILCオフィスと使用機材設置等の連絡、(8)文房具の貸し出しと提供(各種ペン、カードボード、OHP用シート、原稿用紙等) (9)最終発表用コメント用紙作成 【資料 11】 (10)プロジェクト評価表作成等を進めた。

#### IV. 最終発表

##### 1. 当日の流れ

1日目、学生にコメント用紙を配布し、記入の仕方を説明した。ビデオ撮りのためのカメラ操作を説明し、練習させ、学生に撮らせる準備をした。

1グループ約30分の発表予定であったが、3グループだったため、少し時間的余裕のある発表となった。発表後の質疑応答やコメント用紙記入に関しては中間時と同様である。(約5分)

教師は、カメラ操作に対する助言(ズームアップ、学生側の反応も撮る等)、ライト操作(OHPやスライド使用時の暗転)、各機材操作の補助、タイムキーパー、ビデオデッキ操作(再生、一時停止、停止、テープ交換等)、記録のために各グループ発表時の写真撮影、そして全体の流れがスムーズに運ぶように助言や指導を行なった。

2日目は5グループの発表で、持ち時間を25分とした。1日目の経験から、発表の要領が少し理解できたようだ。この日は期末試験の翌日で、しかも、教師は私達二人に加え、中村、矢花両氏の視聴があったことも気をいれた

発表へと導いた要因かもしれない。期せずして硬軟取り混ぜた発表順となった。時間いっぱい各自苦心の作である視覚資料を披露し、努力の跡が伺える力作揃いだった。

全員の発表後、コメント用紙と発表感想のメモを回収した。

## 2. 各グループの発表テーマ・内容・方法と講評

ここでは特長ある発表方法や内容について記す事とする。【資料 12】

(1)「外人力士」.....発表者自身もハワイ出身ということから熱心にとりくむ。テーマ選択理由から4人の力士（元高見山、小錦、曙、武蔵丸）の顔（全身）写真の切り抜きと略歴（本名から現在の地位）を書いたボード、テレビや雑誌でのインタビューからの引用や、小錦綱取りに対するアンケート調査まで、発表原稿はよくまとめられていた。言葉もよく選んで、丁寧であり、終始非常に落ち着いた態度で、声もはっきりして聞きやすかった。ただし、小錦と曙に焦点をあて、ハワイ、日本両国での彼らの生活や人気ぶりを特集したビデオはもう少し簡潔に編集した方がよかったであろう。学生達からも「ビデオは少し長かったけれど、これから相撲を見たらよくわかる、すごい練習にびっくり、曙が好きになった、相撲の解説者になったら？」等のコメントが見られ、皆楽しみながらも日本の国技に改めて関心を抱いたようだった。

(2)「カラオケ」.....ニュース番組の中での特集形式で、一人がキャスター、二人がレポーターという役割設定をとった。まずスタジオでカラオケボックスについての簡単な説明と、カラオケに来るお客さんにとったアンケートを紹介する。次にレポーターが渋谷の街頭に出てカラオケの店を訪ね、何軒目かでやっと店長へのインタビューや店内撮影に成功し、ICU留学生へのインタビューを終え、またスタジオに戻って、3つの店の比較をボードで紹介した。カラオケで使う費用や時間、好きな歌手や曲名等のアンケート結果をカードボードで発表。自分達で録画し編集したビデオを駆使し、変化に富んだ発表であり聴衆もよく理解できたようだ。明るく実に楽しそうにそれぞれの役柄になりきっていて、自然な日本語での報告であった。

(3)「ホームレス」.....5人それぞれが発表分担をしっかりと決め、概要、山谷の歴史、ボランティアの報告、ビデオ紹介と運び方もよかった。深刻な社会問題に真剣に取り組み、日本人でさえ経験できないようなことに勇気をもって挑戦していった姿勢には訴えるものが大きく、学生自身も学ぶところの大であったことを示していた。実際、寮に住んでいる学生等は門限があるため、夜のナイトパトロール等の活動はできず、この5人組の行なった活動を羨む声さえあった。山谷の住人が彼らが考えていたよりも高学歴の持ち主であることにまず驚き、彼らは労働意欲がないのではなく現代社会に適応できない「社会よりの逃避者」であることに同情を示している。日本人のボランティアが少ない事、日本政府の援助が見られない事、日本

人の関心が薄い事への批判等も込められた発表であった。ただ、発表方法としては順番に一人ずつ話していく形式だったので、残りの4人は出番が来るまで手持ちぶさたであった点、もう一工夫ほしかった。人数が多い利点を活かして、部分的にスキットをいれられなかったかと思う。

(4)「お相撲」.....このグループの特徴は、多くのイラストを使って、外国人が興味を持ちそうな事をわかりやすく説明しようとした点であった。ただし説明する際、語彙と表現に不適當な物があり、事前に教師に相談があればそれらを修正し、より良い発表ができたものと惜しまれる。学生側からのコメントにも指摘されたように、気持ちの余裕がないために原稿を読むことに注意が行きすぎてしまい、口頭発表である「～です」「～ます」体が使えなかった。しかし、十分努力したことは認められる。相撲が国際的なスポーツになる事に反対する日本人が42%いるというアンケートの結果は小錦の横綱問題が話題をよんでいる今日、考えさせられるものがある。

(5)「パチンコ」.....数枚の絵パネルでパチンコ台の変遷を示し殆ど話だけで発表した。自分の言葉で聞き手に話しかけるこの方法こそ、他のグループも学んでほしいものである。グループ社会の日本で、なぜこの孤独なゲームが人気があるのかという分析は、社会心理学的に面白い指摘であった。

(6)「高齢化社会」.....市役所や福祉会館等をまめに訪問し、行政面から現場の声まで幅広く取材した意欲や、アンケートの質問事項の適格さ、分析の鋭さは高く評価されてよい。特に現代の若者が老人問題にあまり関心がない事、そして、その若者がこれからの高齢化社会を支えていかねばならない事、そのためにも若者の意識と関心を高める必要性がありと指摘して、発表を締めくくっていたのが印象的であった。

(7)「ゴミ問題とリサイクル」.....二人の発表者の見事な連係プレーを見せた発表であった。豊富な視覚資料（見やすい絵パネル---写真の切り抜きに濃い太いマジックでの説明---見学に行ったセンターで自ら写したスライド、OHPシート、ビデオ、センター配布物のサンプル等）と、適切な説明に準備がよくなされていたことがうかがえた。発表原稿を小さなカードにまとめ、正確な日本語表現を用いて、日本人学生とほぼ同格の余裕ある出来栄であった。非常に意欲的に精力的に取材やまとめに労を惜しまずに取り組み、見ている者に興味と関心と知識を与える模範的な発表であった。

(8)「米問題」.....米をめぐる日米の政治的な見解の違いの紹介、農業を支えている階層の現状、米の自由化が日本に与える影響の予測、消費者の立場からの米に対する意識調査等、終始流れがスムーズな発表であった。インタビューやアンケート等をうまく使って日本人の「米意識」を浮き彫りにした手法は中々のものであった。各自が真面目に研究したことはわかるが、いささか個人研究的な色合いが濃く、グループとしてのつながりがやや希薄という感じもした。日本人が米の自由化に積極的でない理由が、政治的、経済的というより、心理的なものが大であるという分析であった。

### 3. 最終発表から評価まで

学生達には2日目の発表当日にレポート、活動日程表【資料13】、及び感想と全資料（発表に使用したビデオ、OHPシート、絵・図・表のカードボード、スライド、再生紙、無公害ポリ袋等の実物サンプル、ごみ収集に関する外国語版パンフレット、インタビュー時の録音テープ、見学先で得た各種の書類等）を提出させた。

教師は評価の手順として、レポートを保存用に数部コピーした後、

(1)レポートの添削 (2)コメント用紙中の点数集計とコメント記録 (3)資料すべてに目を通してから、教師自身の採点とコメントをまとめて評価表【資料14】に記入していった。更に記録として撮った発表時の写真を中心にしてJ5からの集大成の「J6思い出集」を作成、印刷した。以上のレポートのコピー、評価表、「思い出集」は成績に先だって学生一人一人に返却した。

### V. 学生側の意見と評価

プロジェクト発表を終えた学生達にその感想をメモさせたところ、以下のような意見がみられた。【資料15】

まずメリットとしては (1)新聞などを大量に読む事--特に漢字--への恐怖心がなくなった (2)面白い勉強法 (3)実社会へ出て研究できてよかった (色々な人と話しができた、多くの人がアンケートに協力して答えてくれた、スムーズに行かない経験もした) (4)自由なテーマを選べた (5)調べたかったこと (好きなこと) について研究できた (6)グループ内の協調性を学んだ (同じ目的にむかって共にすごす時間が多くなるにつれ仲良くなったり、いい友達になれた)

反対にデメリットや反省として (1)時間が足りなかった (調べるのに時間がかかりすぎた) (2)発表にもう少し時間がほしかった (1グループ1時間位) (3)学期の前半にしたかった (期末テストと重なったため大変) (4)レポート提出までの全ての計画を早く立てたかった (5)口頭発表とレポートの両方は大変 (しかし、今は両方やって良かったと思っている) (6)発表は全学生と全教師に参加して聞いてほしかった (それだけ時間をかけ自信のある発表だった) (7)カラオケの画面の日本語を読む事で語彙/表現がふえた (8)相撲は今人気沸騰中のため連絡ルートを絶たれ、実際に部屋を訪問して力士にインタビューできなかった事が残念だ等があげられていた。

## VI. 教師側の反省と感想

予期していた事ではあるが、一人の学生の中でもプロジェクトの良い面と悪い面を感じており、評価は様々であった。学生側の意見をもふまえて教師側としての反省及び感想を述べることにする。

まず第1に、J5からの流れとしてプロジェクトという項目を独立させたのは、環境問題の中からいくつか取り上げて調べていかせたかったからである。しかしながら、現在の学生達の興味関心・問題意識が薄いためか、あるいは、あまりにも情報があふれているためか、ただ一つのグループが「ゴミ問題とリサイクル」に取り組んだだけであった。その彼らは非常に広範囲にわたって日本国内で起こっている、あるいは直面している深刻な問題について、積極的に調査し、訪問・見学等により実際に自分達の見、聞いたことを手順よくまとめ発表した。

次に、問題意識が薄いという点では、半年以上異国で生活しているにもかかわらず、日本に住んでいるからこそ調べてみたいと思うテーマがすぐ出てこなかった事だ。もちろん来日当初は何もかも珍しかったに違いないが、毎日の生活の中にそれらの疑問や興味が埋没してしまったかのようだ。これでは留学して日本に暮らし学ぶことの意義が希薄なのではないだろうか。これは今後の課題ともなるが、常に目を大きく見開いて疑問に思った事は追及していく姿勢がほしい。自国でも自己の興味ある問題について研究・発表しレポートを書くことは最近少ないと聞いたが、それは残念だ。

3番目は、時間の問題である。限られた時間の中で、図書館での新聞記事探しからインタビュー、アンケート調査とその分析、見学、レポート提出というプロジェクトは、かなりの負担であったようだ。他のクラスも履修している学生にとっては、試験時期やレポートが重なったり、予定した時間以上に訪問・見学にかかったりと、多くの時間を費やし、木曜日を活動日に開放しただけでは十分とは言えなかった。これは、発表時間にも言えることで、述べたい事をずいぶん削ったグループもあった。せめて1グループ1時間（あるいは1コマ）とり、毎週2グループずつ発表していけば、お互いに切磋琢磨し、最後に発表するグループは完璧に近いものになるのではないか。ただし、評価の点においては考慮すべき問題が残る。また、各グループがもっと簡単に調べられる小テーマを選ぶか、長期に渡る計画をたてるか、あるいは、共通テーマに向かって分担して調べるという形をとるか等の種々の可能性も考えられる。

もう一点、時間が問題となるのは、ひとつの発表が終了した時点で発表者を含めた全員でビデオを見直すフィードバック学習ができなかった事である。発表者の発音、発表手段のチェック、内容から質疑応答そして討論まで持っていきたいと願っていたので心残りに思う。

4番目は、時間との関連もあるが練習不足が言えよう。発音矯正、最終

発表原稿のチェック、そして口頭練習をさせることができなかった等があげられる。インタビューやアンケートとりの際の言葉使いについては、事前に練習できたが、最終発表前のリハーサルは行なえなかった。用いる機材全てを準備し、時間も計りながら手順よく予行演習のミニ番を実施し、学生にも自信と余裕をつけさせたかったのである。もちろん学生側もぎりぎり発表の朝まで原稿や図表・カードを書いていたり、積極的に教師に聞いてもらおうという姿勢を示さなかった事に責任もある。発表時の発音でnativeのこちらにはわかって、はたして聞いている学生に理解できているか心配な時もあったし、機材操作の手順が悪く教師が補助する場面も多々あったからだ。

5番目は、時間、労力、経済面すべてにおいて教師の負担が非常に大きかった事である。例えば、毎日の新聞に目を通し、8つのグループの研究に関連した記事を捜す事、テレビ欄では学生が理解できそうな番組を選んでタイマー録画、公立図書館や書店でありとあらゆる種類の雑誌や情報誌に目を通していく事、また、情報・見学先の知識のない学生のために機関の電話番号調べから事前連絡、見学許可の下約束をとりつけたりする事、すべてのグループと共に行動できなかったが、数箇所の施設見学や訪問・インタビューに付き添い、学生達の態度・言葉使いの観察・質問補助・ビデオ撮り等を手伝う事等である。自由に研究するといっても、やはり動機づけは教師が行ない、波にのせる事も大事だと思い、学生の自主性を損なわない程度に出来るかぎりの援助をしたため週末もすべて費やす事となった。（このことは、教師自身の社会勉強にもつながった）

最後に、機材の使用や貸し出しが十分でないこと。今回はハンディな8ミリカメラや録音可能な小型テープレコーダーは、学生個人や教師の所有物を貸す事で間に合わせたが、数量・質・時間すべてにおいて目的にかなった物を学生が自由に使える事が望ましい。

## VII. 今後の課題

以上の教師側の反省を踏まえて、最後に今後の課題を述べる。

### 1. 目標を一段高くおく

学生が、現在自分のいるレベルより一段上の少し難しい目標に挑戦する事は、必ずや自己の総合的能力をあげる事につながるであろう。様々な試行錯誤を重ねる事によって、人は次第に必要なものだけを摂取し成長していくものである。もちろん、基本的な部分は、教室内でしっかり学ぶべきであるが、その基本をいかに自在に応用するかは、それを実践する場が与えられて初めて開花するのである。聞く・話す・読む訓練に加えて、調査をまとめるという作業は、上級クラスの論文を書くためのよい練習になっ

たはずである。中級レベルの作文は、長くても原稿用紙2枚程度（800字）だったのが、今回は10枚以上である。内容上、枚数が多いのは当然であるが、自分達の調べた事を全部書きたいという意欲をかきたてたのではないだろうか。添削箇所は多かったものの、後でゆっくり読み返せば、作文力を高めるためのよい勉強になるであろう。

## 2. 教師側の挑戦

学生の意欲を喚起させ興味を引きだすのに成功すれば、プロジェクトの実施は半分成功と言ってよいだろう。あとはうまく持続させていくことである。VIの「反省と感想」の5番目に述べたように、教師側の労力や精神的物質的負担は少なくない。しかし、教師の試行錯誤も、自己を高め、よりよい日本語教師となるための大事な過程であり、自己研修への大きな挑戦ではなかろうか。

常に学生の興味をひきそうな情報に敏感であり、こつこつと情報収集に励む事は、長期的に考えれば、結局は自己の財産が増える事になっていく。これを労力の省力化という視点でとらえるなら、各人の収集した情報の相互利用ということが考えられる。

## 3. コース間の情報交換

どのレベルのコースでも、何かしらプロジェクト的なものを実践しない学期は殆どないのではないか。それが単にそのコースの中だけで消化され、他のコースの者とシェアできないで終わってしまうのは、まことにもったいないことである。今までに一体何十本のプロジェクト発表録画テープが作られたことか。そしてそのテープは今どうなっているのだろうか。作品が出来上がるまでの記録はあるだろうか。一度フィードバックで見る位で、一本のテープ作りにかけられた情熱やエネルギー、様々な思いが、その後空しくどこかのキャビネットか棚に置かれたままになっていないだろうか。

多くのコースで試みられたプロジェクトが単なる、‘口こみ’によって情報が広がるのではなく、きちんと整理されていれば、いつでも誰でも過去の情報を得ることができる。それは膨大なエネルギーの省力化や基本データからのさらなる飛躍、ICUにおける日本語授業の一つの歴史作りにつながるのではないだろうか。

## 4. ビデオライブラリー設置

各自行なったプロジェクトのタイトル、内容を記録したものを残す習慣が根付いたら、今後のプロジェクト活動に少なからず役に立つことだろう。そして、関連資料を1ヶ所に集めておく場所と管理体制ができれば更によい。これを仮にビデオライブラリーと名付け、大いに活用することが望まれる。教師が情報を得るためだけでなく、学生も自分達の発表したビデオ

をフィードバックできるように利用したい。発音、イントネーション、発表の手順や方法のチェック、アイコンタクトのチェック等、出来るだけ有意義に利用してもらいたい。また、異なるレベルや異なる学期のクラスで視聴し、参考としたり、練習台とすることも考えられよう。

機材に関しても、教師用・学生用の小型で操作の簡単な8ミリビデオカメラやテープレコーダーが揃っていて、自由に借りられるシステムがあれば、活動はより広範囲に活発になるであろう。

## 5. 長期的な計画と実施

ICUのような3学期制をとっている教育機関にあっては、1学期10週間の中で、普通の授業以外にプロジェクトとして、事前学習、準備、活動、発表、そしてフィードバックまで行なうのは短すぎるように感じる。このため、2学期間かけて長期的に計画を組むのがよいのではないだろうか。教師も今回のように持ち上がりであれば、なお長期的計画も立てやすい。プロジェクトを実施する意義、目的、効果等を十分学生に納得させた上で実施にもっていくには十分な時間がほしい。今回の学生側からの批判の「時間が足りない」という指摘も、2学期間で行なうということになれば、少しは改善されるのではないか。より高度な発表技術の研究や効果的な発表形式の探求等の「事後学習」があつてよいだろう。

## 6. 安全性の問題

最後に、今回のプロジェクトを振り返って感じることは、事故もなく無事に終わって良かったという安堵感である。学外で起こった不測の事態に対しては、今のところ何の対策もない。これは別にプロジェクトに限ったことではないが、各自の節度ある行動と良識に頼っている部分が多い。

学外に出て実社会体験をすることは、素晴らしい収穫もあるが、常に危険と隣り合わせであることも忘れてはならない。この安全性をどう考えるかも当面の大きな課題である。

おわりに

冒頭でもふれたように、J5もJ6も中心課題はクラスの中で与えられた教材を読み、新出語彙や表現、文法を学び内容を把握していくことであつた。しかしながら、今回のプロジェクト研究においては、自分が現在生活している日本で日々発行または放映されているメディアから多くの資料、記事、情報を短期間内に一度に捉え、必要と思われる事柄のみを取捨選択して、自分の力で整理していかなければならず、無意識の内に読解能力が進歩したように思われる。授業でも随時、最新記事を読み、学習した事がこの活

動の刺激となったようだ。

読む事にとどまらず、学外に出て実社会に触れる良い機会も得た。しかも観光や物見遊山ではなく、アンケート用紙への記入を頼んだり、インタビューでコミュニケーションしたりするための話す・聞く能力も養われた。その上、むやみに質問するのではなく、限られた対象（目的にかなった性や年齢）を見つけだす判断力、忙しく走り回っている都会人を呼びとめる勇氣、断られても再度挑戦していく積極性を養い、自分の「日本語」にも自信がついたのではないか。そして、半年以上東京やその近郊に暮らしながらも、自分の部屋とICUやアルバイト先だけを往復することで留まっていた時間や空間を越えた視野の拡大にも貢献ができたとの確信をもった。

特に高齢者問題を扱ったグループは、普段の生活では同年代の若者にしか会わずに生活していたため、市役所訪問や福祉会館でのお年寄りとの話し合い等で、日本のお年寄りに囲まれての珍しい交流となった。

更に、半年間の留学生活で、疑問に思い不思議だと感じ、あるいは、元々興味のあったことを一つ取り上げ、時間をかけて深く広くほりさげていくことの重要性も学べた事と思う。

プロジェクトでは、普段教室では見られない学生の顔が見えてくる。例えば、相撲グループの一人は、近くの相撲部屋に直接訪ねて行って、けいこを見せてもらったという。あの学生がという驚きとその積極性に脱帽する。このように学生の思わぬ能力の発見も多い。今回のように、教師が学生と一体化したような取り組みをしてみると、教室内での授業参加やテストからだけで、学生の能力を評価してよいものだろうかという疑問が起こってくる。教室内活動と日本語運営能力の両方を考慮した幅広い評価が今後もっと必要であると考えられないだろうか。学生自身も、ペーパーテストの点に一喜一憂する、いわゆるグレードコンシャスな立場より、日本に来て生活することによって、自分がどの位日本語運営能力が伸びたかを自己確認する事の方が、留学の意義があるのではないかと考える。

学生は新たな満足感と達成感を体得し、教師も学生主導型の授業を進め課題解決への1つの方途となったと自負している。今回のこのプロジェクト研究を1回だけに終わらせずに、日本の生活習慣・文化・日本の気候風土に根付いた行動や行事等へと視野を広げていき、実践的・総合的能力のより望ましい発展につなげていく事が、更なる飛躍へと学生を導くことになるであろうと強く期待している。

最後に小論の発表主旨を理解し、快く資料提供に協力してくれた学生諸氏に感謝の意を表したい。

## 参考文献

- 1、岡崎志津子他（1987）「こんなとき何と言いますか」『ロールプレイで学ぶ会話 1』 凡人社
- 2、\_\_\_\_\_（1988）「こんなとき何と言いますか」『ロールプレイで学ぶ会話 2』 凡人社
- 3、尾崎明人、ネウストプニー（1986）「インターアクションのための日本語教育 — イマーシヨンプログラムの試み —」『日本語教育』59号 pp.126~141 日本教育学会
- 4、倉地暁美（1988）「中級学習者の日本語日本事情教育におけるグループ研究プロジェクトの試み」『日本語教育』 66号 pp.48~63
- 5、坂井厚子（1991）「上級学習者に対する「日本文化」の授業から — アンケート導入の試み —」『日本語教育』 73号 pp.167~178
- 6、ネウプストニー、J. V. 「日本人のコミュニケーション行動と日本語教育」『日本語教育』 67号 pp.11~24
- 7、ネウプストニー、J. V., 尾崎明人、宮崎里司、（1992, 4~6月）「日本語教育におけるイマーシヨンプログラム」『日本語』 アルク
- 8、バルダン田中幸子他（1988）「プロジェクト・ワーク」「ロールプレイとシミュレーション」『コミュニケーション重視の学習活動』 凡人社

## 資料一覧

1. 1991年秋学期 (J5) プロジェクト関連授業スケジュール
  - 10月29日 (金) 環境問題のアンケート用紙を配布、宿題として友人等に聞き、結果を11月14日に発表
  - 11月12日 (火) オゾン層と地球温暖化に関する新聞記事の読解、ビデオ視聴
  - 11月14日 (木) 酸性雨と砂漠化に関する記事とビデオ学習後、それぞれのアンケート結果を報告しあう
  
2. 1991年-92年冬学期 (J6) プロジェクト関連授業スケジュール
  - 12月12日 (木) 「水俣公害病」に関する学習---ビデオ視聴、図書館での実習とクラスでの発表
  - 12月19日 (木) ビデオ視聴による学習「チェルノブイリ放射能汚染、野生動物保護（コウノトリ）、湾岸戦争による環境破壊、ゴミ戦争とリサイクル」とプロジェクト全般についての話し合い
  - 1月 9日 (木) 「お米自由化」に関する新聞記事と投書および一般意識調査の結果をグループ分担して読み発表
  - 1月13日 (月) レポートの書き方 I データの読み方
  - 14日 (火) インタビューの仕方 例と練習
  - 16日 (木) 相談日
  - 23日 (木) 自由活動日
  - 27日 (月) レポートの書き方 II フォーマットと調査結果の書き方練習
  - 30日 (木) 中間発表
  - 2月 3日 (月) レポートの書き方 III 1月27日の続き
  - 6日 (木) 自由活動日
  - 13日 (木) 自由活動日
  - 17日 (月) 発表準備
  - 20日 (木) 最終発表
  - 25日 (火) 最終発表とレポート提出、活動日程表及び感想の提出
  
3. 事前学習として用いたビデオ
  - 1) 「酸性雨、砂漠化、地球温暖化、オゾン層破壊」 日本テレビ 地球サンデープロジェクト 1990年
  - 2) 「ここまでわかった放射能汚染地図---チェルノブイリ」 NHK特集 1986年9月29日 50分

「チェルノブイリの教訓 (1) ---食料が放射能汚染される時」

ETV 1988年2月3日

- 3) 「コウノトリ」教養セミナー 科学と人間 海外科学番組秀作シリーズ I ETV 1982年5月7日

- 4) 「ドキュメンタリー91 救われぬ冬に---水俣患者達の35年---」  
1991年2月6日 45分

- 5) 「トモコの小さな声---ユージンスミスが水俣でみたもの」  
ETV8 1985年12月9日 45分

- 6) 「東京のゴミ戦争〜今こそリサイクル社会を！」TBS  
1991年2月16日

- 7) 「環境問題〜ゴミ リサイクルと環境教育」ICU高校 政経演習  
クラス 学校祭発表 1991年9月14日&15日

#### 4. 使用タスクの例

ビデオを見ながら以下の ( ) の中に入る言葉を書きなさい。

##### I. チェルノブイリ原発事故

- A. 1. ( ) 年 ( ) 月 ( ) 日に起こった。  
2. 広島原爆の ( ) 倍  
3. ポーランドでは子供達の ( ) に ( ) を通して  
癌をひきおこす可能性があるので、( ) を飲ませた

##### III. 東京ゴミ戦争とリサイクル

###### I. ゴミ問題

- 2 東京で出るゴミの量 1日 ( ) 万トン  
1 可燃ゴミ(生ゴミ)はゴミバンカで ( ) %焼却  
焼く事によってゴミの重さは ( ) 分の1  
かさ(量)は ( ) 分の1に減る  
焼却されなかったゴミは埋立地に運ばれる

###### 2 分別ゴミ

- 運ばれ方 1) ( ) 埋立地へ  
2) ( )

現在の埋立地は平成3年までもたせる

###### 3 粗大ゴミ

粗大ゴミが増えたのは { i. ( )  
ii. ( ) } の反映である

##### IV. リサイクル

人々のリサイクルに関する意識の変化; 節約から環境保護へ

- 1 生ゴミの再利用 生ゴミ → ( ) → 堆肥

5. 読解用新聞記事

- 1) 「今私達にできることは ONLY ONE EARTH  
地球環境悪化 9つの要因を考える」から4つ  
読売新聞、1989年6月4日
- 2) 「コメ」 読者のページ、読売新聞、1991年12月27日  
「にほんの農業を思う」談話室、産経新聞 1991年6月24日  
「コメ---本社世論調査の内容---市場開放 意識に変化」  
読売新聞、1991年12月20日

6 「学園祭のテーマに環境問題」 日経 イヤホン 91年10月19日

7. 資料として学生に渡した関連ビデオ例

- 1) 「曙---下町に生きる人情」 日本テレビ 1月27日 40分
- 2) 「大相撲ダイジェスト」 テレビ朝日 1月13~15日 23~26日
- 3) 「曙と小錦」 CBSニュース 91年5月
- 4) 「武蔵丸inハワイ」 TBSテレビ ブロードキャスター 1月18日
- 5) 「貴花田と曙」 NHKニュース 1月24日
- 6) ドキュメント「生きる3 街にミサが響く山谷 労働者達の冬」  
ETV プライム10 91年2月6日
- 7) 「土曜フォーラム 高齢化社会とボランティア」 NHK  
92年1月31日
- 8) 「保育園児の老人ホーム交流」 日本テレビ 1月28日 8分
- 9) 「TVムック 謎学の旅 パチンコのルーツをたずねて」  
日本テレビ 92年1月31日
- 10) 「今こそリサイクル社会」 TBS 92年2月16日
- 11) 「紙がみの異変~再生紙ブームの裏側で」 NHK
- 12) 「ゴミ0の日特集-----清掃工場探検」 NHK ミッドナイト  
ジャーナル 91年5月30日 13分
- 13) 「首都圏特集 ゴミ戦争最前線」 NHK 90年12月6日 75分
- 14) 「主婦の見たゴミリポート-----捨てる前に考えよう 缶・プラス  
チック・紙」 日本テレビ 91年4月6日 40分

8. 学生に渡した新聞 雑誌 パンフレット等の参考資料の例

- 1) 「大相撲 見どころ 楽しみどころ」 雑誌MORE 91年12月号
- 2) 「外人力士29人衆奮戦 大相撲は国際格闘技だ！」 読売  
すぽーつプラザ 92年1月4日
- 3) 「取り組み結果 勝負解説ページ」 日経 スポーツ欄  
1月18, 19, 21, 24, 25, 27日

- 4) 「老人入院見舞金を支給----65才以上の方で7日以上入院に----」  
広報みたか 91年12月1日
- 5) 「大沢三丁目高齢者住宅まもなく着工」 同上 92年1月19日
- 6) 「老人クラブ 若返り作戦----60代集め[青年部]----地域イベント人  
脈作る」 日経 婦人家庭欄 92年2月5日
- 7) 「特集 パチンコ」 日本語ジャーナル 92年3月号
- 8) 「産業フロンティア----マイクロ波当てて家庭で生ごみ処理」  
日経 91年12月15日
- 9) 「LAW&TAX----住民に協力義務、収集拒否も可能」 同上
- 10) 「分解性プラスチック--光 微生物で粉々に」 日経 91年9月19日
- 11) 「ごみ戦争の解決策は」 日経 SUNDAY NIKKEI 91年2月9日
- 12) 「ごみ出し上手はIC美人」 雑誌MORE No172 91年10月号  
P263~267
- 13) 「アルミ缶回収こんな形でやっています」 サンケイリビング  
91年11月23日
- 14) 「ごみ減量 都民、分別ついてきた」 産経 92年1月29日
- 15) 「ごみ問題をどうする」 毎日 92年1月14日
- 16) 「コメに生きる」1~4 読売 92年1月2日より11日までの  
シリーズ
- 17) 「コメ部分開放論無視----ドンケル合意案全容----日本の主張反映  
されず」 読売 91年12月14日
- 18) 「コメの国際競争力を強めたい」 読売 社説 91年12月20日
- 19) 「コメ市場開放論議」 日経 92年1月20日
- 20) 市報むさしの 12月1日、12月15日、1月15日、2月1日  
広報みたか 12月1日 1月19日  
東京都だより 12月 1月 2月  
むさしの市 私の便利帳 平成2年版 等 その他30点

9. コメント用紙 (中間発表)

92冬 J6 プロジェクト中間発表コメント用紙	
テーマと発表者	名前 <u>佐藤 理絵</u> A. 発表準備 5~1 B. 発表のしかた 5~1 C. 内容よくわかった 5~1 D. コメント
「カラオケ」 大島、尾崎 サン	A: 5 B: 5 C: 5 D: とてもおもろそう 話題です。アソート100 まい大変そうです。
「お米」 ルーカス、エリカ アッタナジオ	A: 5 B: 5 C: 5 D: すごく準備ができて いる。おもしろそう トピックです。
「老人問題」 リュウ、リン、 永谷	A: 5 B: 5 C: 5 スライドの発表がよかった とおもいます。おもしろ 見えてくる。かわいておもしろ。
「ハワイ出身の 相撲力士」 クック	A: 5 B: 5 C: 5 D: 5 とてもおもしろ いておもろそう。おもしろ い。
「相撲」 バリマ、フォン	A: 5 B: 5 C: 5 D: 5 とてもライリー でわかりやすい。
「ホームレス」 メラニー、スーザン フィッシュマン、 小宮山、ヤング ブライスタイン	A: 5 B: 5 C: 5 D: とても準備が できています。おもしろ い問題もたくさん。

## 環境問題アンケート

末吉理奈  
佐藤理絵

各質問に対して答えを一つ選んでください。

1. あなたは環境問題に関心を持っていますか？ a) はい b) いいえ
2. その問題に対してできることは全部やっていますか？ a) はい b) いいえ
3. “環境問題”という言葉を聞いたら一番最初に思いつく物は何ですか？  
a) 海洋汚染 b) 砂漠化 c) 酸性雨 d) 森林が消え去っている事 e) ゴミ  
f) オゾンホール g) 飲み水
4. 週のどの日にどのゴミを捨てるか知っていますか？ a) はい b) いいえ
5. 料理の油はどう処理していますか？  
a) 流しに捨てる b) 別の容器に入れて捨てる c) 固めて捨てる  
d) その他 ( )
6. “紙”類はどう分別していますか？  
a) 新聞紙と板紙(ダンボール紙)  
b) 新聞紙と雑誌(漫画)  
c) 新聞紙と“紙”(ノート類、ティッシュペーパー、紙クズなど)  
d) 新聞紙、板紙、と雑誌  
e) 新聞紙、板紙、雑誌、と“紙”  
f) 板紙と雑誌  
g) 板紙と“紙”  
h) 板紙、雑誌、と“紙”  
i) 雑誌と“紙”  
j) “紙”類は分別してない
7. 割り箸をよく使用していますか？ a) 外食する時だけ b) 家でつかって  
c) 使わないようにしている、外食する時自分専用の箸を持参してる
8. 再生紙(ノート紙)使っていますか？ a) はい b) いいえ
9. 使っていないのなら、その理由は何ですか？  
a) 再生紙はつかいたくない(質が悪い、汚い)から  
b) 値段が高いから  
c) 手に入りにくいから
10. 電池、電球、体温計、は有償ゴミとして出していますか？ a) はい b) いいえ
11. ごはんをたいた水を何かに使っていますか？ a) はい b) いいえ
12. 紙バックのリサイクルをしていますか？ a) はい b) いいえ
13. 買物に行く時スーパでもらう袋を断るために自分の入れ物(袋、籠)を持って行っていますか？ a) はい b) いいえ

1. 4. 燃えないゴミはどう分別していますか？

- a) びんと缶
- b) びんとビン
- c) びんとポリエチレンの買物袋
- d) びん、缶、とビン
- e) びん、缶、ビン、とポリエチレンの買物袋
- f) 缶とビン
- g) 缶と、ポリエチレンの買物袋
- h) 缶、ビン、とポリエチレンの買物袋
- i) ビン、とポリエチレンの買物袋
- j) 燃えないゴミは分別していない、全部一緒に出している
15. 過剰包装はいつも断っていますか？ a) はい b) いいえ
16. 過剰包装を断った事がありますか？ a) はい b) いいえ
17. シャワーを浴びながら髪を洗っている時シャワーの水を流しっぱなしにしていますか？ a) はい b) いいえ
18. 歯を磨く時水を流しっぱなしにしていますか？ a) はい b) いいえ
19. スプレー(ヘアースプレー、殺虫剤)を使っていますか？ a) はい b) いいえ
20. いらなくなった衣類はどうしていますか？(いくつでも)  
a) 捨てている  
b) 知っている人にお古としてあげている  
c) 雑巾にしている  
d) ガレージセールやフリーマーケットに出している
21. 使い捨てカメラを使ったことがありますか？ a) はい b) いいえ
22. 環境問題に対するボランティア活動に参加していますか？  
a) はい b) いいえ
23. 環境に対して特別に心がけていることがありますか？(簡単に説明してください)

アンケートへの協力どうも有難うございました。最後の質問をさせていただきます。

性別： a) 男 b) 女

年齢： a) 15~20 b) 21~25 c) 26~30 d) 31~40

e) 41~50 f) 51~60 g) 61~70 h) 71~

私達は日本語をのたために老人の世界について調査しています。このアンケートに御協力いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

1. いっから人間は老人と呼ばれると思いませんか。  
(a) 55-60才 (b) 61-65才 (c) 66-70才 (d) 71才以上

2. あなたのおじいさんとかばあさんはまだか元気でですか。  
(a) おじいさん (b) かばあさん (c) 両方 (d) いなし  
[ "a", "b", "c" の人は 3 人 ]  
[ "d" の人は 5 人 ]

3. ご家族はおじいさんとかばあさんと一緒に住んでいませんか。  
(a) はい (b) いいえ

[ "a" の人は 5 人 ]  
[ "b" の人は 4 人 ]

4. 一年間どのぐらいおじいさんとかばあさんと会いますか。  
(a) 全然 (b) 1-3回 (c) 4-6回 (d) 7-9回 (e) 10回以上

5. 結婚後、将来いつかはお孫親と一緒に住むつもりかありますか。  
(a) はい (b) いいえ (c) わかりません。

[ "a" の人は 7 人 ]  
[ "b", "c" の人は 6 人 ]

6. ご両親が老人になつた時、老人ホームに行かれますか。  
(a) はい (b) いいえ (c) わかりません

7. 適当な定年退職は「くつだ」思いますか。

(a) 60-64才 (b) 65-69才 (c) 70才以上

8. 老人世界に文つして、何がボランティアのようなことをしたいですか。

(a) はい (b) いいえ  
たええ

9. 政府は老人世界に文つして、十分な福祉を供給していると思いませんか。

(a) はい (b) いいえ (c) わかりません

10. 老人は社会の負担だと思いませんか。

(a) はい (b) いいえ

11. 電車がバスを乗っている時、老人に席を譲りますか。  
(a) はい (b) いいえ

12. 老人は一人で暮すのは危険だと思いませんか。  
(a) はい (b) いいえ

13. 老人の福祉のための税金を何パーセントおぼいなるか知っていますか。  
(a) はい \_\_\_\_\_ % (b) いいえ。 [ "a" の人は 14 人 ]

14. それほど高いと思いませんか。  
(a) はい (b) いいえ

御協力ありがとうございました。

アンケート 39 オ 女 男

①カラオケをしますか?

A. はい

a) 月に一回

b) 週に一回

c) 年に一回

d) いかない理由は?

B. いいえ

② どちらの方が好きですか/1. に行きますか? 理由は?

④ カラオケ ボックス B. カラオケバー C. 両方

③ カラオケに行く理由は? (仕事のつきあい、遊びなど)

⑤ カラオケをしに行く時平均的何時間位 いますか?

⑥ どういう曲を歌いますか?

④ 演歌

B. ポップス

C. 外国の曲 a. どの歌?

D. その他

⑦ どの歌を曲を三つ書いて下さい (題、歌手)

A. 折原啓子 森進一

B. 北の原 〃

C.

⑧ よく行く所の名前と場所は? (例: BIG ECHO, YOUTI)

③ 一度にいくらぐらい使いますか? (曲代も含めて)

⑤ 歌う時 どう感じますか?

すっきり

④ 一言でカラオケを書き表して下さい (あなたにとってカラオケとは)

自分自身を見つげること

ご協力 どうもありがとうございました!!

日本の相撲界で活躍しているハワイカス

1. 相撲に関心ありますか? はい いいえ

2. 場所中テレビでも相撲を見ましたか?

毎日見ます  
時々見ます  
全然見ません

3. 外国人カスが いることを知りましたか?

はい いいえ

4. 定例に入票して相撲界で活躍している外国人カスは3人います。この3人は皆ハワイ出身です。下記からこの3人を選んで下さい。

琴錦 日置  
貴花田 若花田  
小錦 武蔵丸  
貴ノ波 千代ノ富士  
舞ノ海 大乃国

5. この3人のカスの中で1人は大関です。彼の成績が良ければ横綱になれます。どう思いますか?

横綱になてほしい  
横綱にならないうほうがいい

ご協力を どうも有り難うございました。

もしコメントが あれば この紙の裏面に書いて下さい。

資料 11 コメント用紙 (最終発表) 学生記入例

J6 (1991/冬) プロジェクト コメント表 (1~5段階評価) (1) 採点者 (ベッキーサン)

発表者とテーマ	準備	発表					日本語	努力	コメント (わかったこと、きん点、感想など)
		音声	機材の扱い	構成	内容	協調性			
「カラオケ」 大島 尾崎 サン	5 5 5	5 5 5	5 5 5	5 5 5	5 5 5	5 5 5	5 5 5	5 5 5	最初は、お米が、いいと思いましたが、でも長くなり、 ましたからよかった。私達の発表は、完璧 じゃないけど、楽しみにやりましたから、 いいと思えました。このプロジェクトは、 本当に良かったです！カラオケについてよく 理解できました。でも先生のみんなが、 いなかったから残念でした。う
「お米について」 マタ ルーカス アッタナジ	5 5 5	5 5 4	5 5 5	5 5 5	5 5 4	5 5 5	5 5 5	5 5 5	お米の問題は、今日本とアメリカの一番 おもしろい問題です。
「ハワイ出身の カス」 クック	5	4	5	5	5		5	5	カスについて少し理解できました。 videoは、楽しめました。
「パチンコ」 ファインスタイン	4	5		4	4		5	5	パチンコは、やはり人気があります。

J6 (1991/冬) (1) 採点者 (ワアン リュウ)

発表者とテーマ	コメント (わかったこと、きん点、感想など)
「カラオケ」 大島 尾崎 サン	発表する方法は、とても creative
「お米について」 マタ ルーカス アッタナジ	お米の問題は、最近の 問題だ。この調査 は、おもしろかった。
「ハワイ出身の カス」 クック	ハワイ出身のカスのこと、少しわかった。 彼らの練習は、すごいと思う。 ビデオは、おもしろかった。でも、ちょっと長すぎた。 半分の発表は、ビデオばかりだ。
「パチンコ」 ファインスタイン	いもしろい topic で、パチンコに 対して考え方や資料は、おもしろかった。

(1) 採点者 (小宮山 さくら)

コメント (わかったこと、きん点、感想など)
自信がすごいですね！一面接とかは、とても よくできたと思います！ でも、英語がちょっと、99%に、かまわれない。 JOHNNY との面接が、はかばかしいと思 いました。発表の内容を、おめたて (WEAKEN) と思う。
言葉を分かりやすく説明に、はかたに。 難しい問題に対して、発表をするのが、すごく 偉い事だと思う。 調査が、よくできてたと思う。
時々言葉が、難しくて、分り難かった。 ビデオ時間が、長かった。かまわれない。 でも、クックさんの発表は、おもしろいと思
もう少し準備してくれれば、プロジェクトが、よく できたかまわれない。例えば、パチンコ屋のビデオ を見る。



資料 12 発表テーマとその活動状況

日付	テーマ	人数	資料	調査手段/活動	発表方法
2/20	ハワイ出身の外人力士	男子1名	日経、読売、産経 新聞スポーツ欄 雑誌、TVの大相撲ダイジェスト 関連力士のビデオ	インタビュー (36名) (相撲部屋訪問は実現せず)	*4力士の写真と 紹介文入りカード *力士紹介と取り組みビデオ
2/20	カラオケ	女子3名		店長やお客にインタビューし、 店内を撮影 アンケート (日本人と外国人 計60名)	*学生作成のビデオ (渋谷の町、カラオケボックスの 店内、店長へのインタビュー *アンケート結果を記したカード
2/20	ホームレス	男子2名 女子3名	新聞記事、山友会新聞 Japan Times	山谷でのボランティア活動、 牧師へのインタビュー、 サイトバトロール	*山谷のビデオ *難しい語彙の板書
2/25	相撲	男子1名 女子1名	雑誌(More、世界の動き) 書籍4冊、知恵蔵	相撲部屋訪問 アンケート	*OHPシート
2/25	高齢者社会	男子1名 女子2名	新聞記事、統計年鑑、 市報、イダス、書籍1冊	市役所訪問、 福祉会館訪問(館長や お年よりにインタビューし、 録音とビデオ撮り) アンケート(80名)	*OHPシート *インタビュービデオ *テレビからのビデオ録画
2/25	パチンコ	男子1名	書籍3冊 テレビ番組	パチンコ店内でのアンケート(18名)	*パチンコ台変遷のカード
2/25	ゴミとりサイクル	女子2名	新聞記事、市報、書籍 雑誌、サンケイリビング、広告 テレビ番組(NHK特集、 民放ニュースや特集)	見学(リサイクルセンター、グリーンセンター、 市役所、エコジ-展) スライト撮影 インタビューとアンケート	*雑誌や広告からの切抜 カード、ポ-ト *スライト *実物(英中韓国語のチラシ 再生紙、低公害ゴミ袋等)
2/25	お米の問題	女子3名	白書(1989-91) 雑誌、書籍 新聞(3か月分) アメリカンセンターからの書類 米問屋パンフレット	電話インタビュー、 見学(米問屋) アンケート(女性25名)	*OHPシート *アンケート分析結果カード、ポ-ト

## 活動日程表

丁木弓力

準備

大島省  
尾崎みゆキー  
サンベツキー

11月23日から26日 了 了 上 上 の問題と 問題と

1775

1月29日 1回目の女子寮の友達にア

[illegible]

1	月	3	0	日	中間発表
---	---	---	---	---	------

2月6日　　ち　じ　う　じへ行っ　て　　い　ろ　い

[illegible]

た。残念ながら、書店長は、

[illegible][illegible]

の店長のイッパツをしたら。

[illegible]

乙卯九月。

2月	13日	アソケ	一上	さくばり	たした
----	-----	-----	----	------	-----

2月14日 ちゅーじゅー 新しく

開いたボックスを見に行っただ。

新しく開いた店や、や、は、つや

す	い	は	だ	い	で	は	し	い	た
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

2023 4-75 20X20

2月16日　しぶやへ行、ス、ビデオをど、

た。B15・E10の店長に

質問を聞いた。 32B1G

[illegible][illegible]

ボックスの店長セビテオにとっ

[illegible]

グ"という店でくばった。

2月17日　　ア　　ッ　　ー　　ト　　の　　デ　　ー　　を　　集　　め　　る　　の　　日

[illegible][illegible]

2月18日 五人の外国人にカラオケのア

												m
>	F	F	T	.	r	e	t	a	n	d	s	

[illegible]

2月20日 ㄗㅇㅈㅊ 7 上発表

[illegible]

2月26日 論文を出した。

[illegible][illegible][illegible]

2X2 25 4 2X2

# 高齢者社会

一 クイン、リユウ

調査報告

永谷栄一

エリカ、リン

一(4)市役所

(4)二月六日

(4)リユウ、永谷、リン

(4)老人福祉会の係長をインタビューした。

(4)40分つインタビューして、老人福祉の

係長は町の老人にたいこの福祉のことを

説明してくれた。いうまきもた、この

インタビューはうまき行った。

二(4)武蔵野福祉会館

(4)二月二十二日

(4)リユウ、永谷、先生

(4)老人をインタビューした。

(4)だいたいの皆様が、ご協力してくれて、老人

の気持ちもわかったり、踊りも踊って

れたり、老人の世界もわかったようになっ

た。やはり、われわれが感動した。

18

三(4)武蔵野福祉会館

(4)二月二十二日

(4)リユウ、永谷、先生

(4)：

(4)短いインタビューで、この福祉会館の動

作や施行というところを調べた。これも

うまき行った。

四(4)老人の世界についてアンケートした。

(4)二月十二から二十一日まで

(4)リユウ、永谷、リン

(4)ロロシと早稲田の学生。40男性、

40女性

(4)大変時間がかかったですが、一般の来

客たちのたまには老人の世界にたいこ

わがさうになつた。

# 14 プロジェクト評価表.

プロジェクト評価表		発表者 末吉リナ
評価項目	あなたの点数	
準備 (5)	5	
発表		
音声 (5)	5	
機材の使い方 (5)	5	
構成 (10)	10	
内容 (15)	15	
協調性 (5)	5	
日本語 (20)	20	
コメント能力 (5)	3	
レポート (30)	30	
合計 (100)	98	

題 ゴミ問題

98

評； 二人でよく協力して意欲的によく調べましたね。発表の方法もよかったし、資料も豊富でした。実際にいろんな日本人と会って話してすごく日本語の勉強になったでしょう。皆のゴミ問題に対する関心を高めたと思います。 レポートも殆ど完璧でした。

友達のコメントより；スライド'がよかった。準備がすごかった。完璧！一番よかった。発表がはっきりして日本語もなめらかだった。でも、時々人々の顔を見た方がよかった。ちょっと読み過ぎ。もっと普通に話して。 exampleがあって面白かった。informationがたくさんある。よいけれど、悲しいです。

これから、みんなもっとリサイクルしよう！

プロジェクト評価表	発表者； アッタナジオ
点数省略	
評； 主婦への調査結果をグラフにまとめ、見やすくわかりやすかったです。（ただし、全て同じピンクではなく色々な色を使った方がもっといいですね。） 落ち着いてきれいな日本語でした。	
レポートも構成はいいです。各チャプターにわけてサブタイトルをつけ、最後に自分の意見も書きましょう。	
友達のコメントより； とても学問的で時事的な問題を取りあげてがんばった。 よくまとまっている。 よく調査しましたね。 日本人はあまりごはん食べない！ お米高い！ グラフがいい！	
Eye Contact もっとほしい！	

## 資料 15 プロジェクト発表後の感想

エリカ・マツ Erika Mats

プロジェクトについての感想はあまりpositiveではありません。たくさん時間がかかったのでほかの授業の勉強のじまにしました。それにJ6の勉強もありましたのでちよつとたいけんがしたと思います。プロジェクトのおかげで色々な面白いことを習いました。発表の時間がかかりなかったのでもそんなに上手でできませんでしたが、作文のほかかと資料を見ていたたけは良いと思います。

これでも一度とてもありがたうがございました。私の日本語は本当に上達して来ているともうれいしています。

ジョアンナ・ルークス Joanna Luks

J6はJ5によりもと おもしろかった。内容など学ひうももと おもしろかった。自由に自分のプロジェクトをresearchすればちゃんと自分に興味を待っている事について研究かてみる。取った点はおもしろいと思うのでか ~~その~~ クラスの内容などを本当に楽しめりおもしろかった。日本語はよくはなれたと思います。



アタナシオ

みなさんが、しょうけんめいにより、協調的プロジェクトをつくり、面白、勉強の仕方だと思ふ。ただ、時間か少なくと、発表がやり出出来ません。

小宮山さくら

プロジェクトに対して:

論文を書くのが大変だった。発表の準備とかあのクラスの期末試験のこともあったから。タイピングがよくなかった。学期末じなくて、前半にすまの。がーつの考えてです。でも、本当に日本社会へ出て研究をでるのがよかった。プロジェクトを学期の始めのから私たちに説明して、正確に計画をばってけら、最高にできるかえりたし。

## メラニー・オノデワ

### 感想

この話題を選んだ時、情報を集めるのが難しいと思っただけで実はそんなに難しくなかった。ホームレスの事をよく知っている人達は伝えたかったけど一般的な日本人はホームレスの問題について話したくなかった。

ホームレスの問題は日本の社会の一つの局面で日本人も外国人もあまり見えないけど、私達はこの局面を少し見えたのはとてもよかったと思う。

## ケン・ファインスタイン

パチンコをちょっと調査しても、とふかくしりべたいと思います。特にナクザとパチンコのギャンブルの関係たくさん質問がのこっています。発表してからきもちよくなりました。いろいろしたことほとんど表言できたと思います。パチンコ屋さんの中をみせはよかったと思います。

## マリマ・フエン

この調査をやって楽しかった。また、アンケートの為に日本人に面接してもらえばいい。それは私達が日本語を使うの珍しい機会だ。私達の日本語が下手でも、日本人は気遣いにやさしくして協力してくれて、日本人は親切な人々だと気がついた。最も大切なことは相対のことが理解することが出来る。つまり、それは私達の目的だ。